

# 「宮古B・P」研究に助成金

## 06年度地域新生コンソーシアム研究開発事業

### 有用性「ヒト」での実験が重点

#### 武蔵野免疫研究所

国の二〇〇六年度地域新生コンソーシアム研究開発事業および地域新生産業創造技術開発費補助事業にこのほど、宮古ビデンス・ピローサ(宮古B・P)の研究開発が採択された。〇六年度は八千六百万円、〇七年度は四千三百万円の助成を受け宮古B・Pの研究・開発が行われる。一九九六年から宮古B・Pの研究に取り組んでいる武蔵野免疫研究所の吉田八束代表取締役は、この事業を活用し宮古B・Pの有用性を「ヒト」で実験することに重点を置き研究に取り組む決意を示した。

事業採択は九日、宮古島市の伊志嶺市長、武蔵野免疫研究所の吉田代表取締役らが会見を開き報告した。研究のテーマは「宮古ビデンス・ピローサを用いた特定保健用食品の研究開発」。高血糖症や花粉症に対する有用性を「ヒト」での試験で確認していく方針を説明し、その上で「医療機関においても信頼される真に健康生活に役立つこれまで

にない保健用食品を確立し、新しい産業の育成を企図する」などとしている。

伊志嶺市長は「事業が

国に認められ、研究が継続できることは良い結果と受け止めている。この事業が宮古の大きな産業



国の事業採択を報告した伊志嶺市長(左から2人目)と武蔵野免疫研究所の吉田代表取締役ら=9日、宮古島市役所平良庁舎

となり、地域の発展につながることを期待している」と話した。吉田代表取締役は「島おこしのために、一歩でも二歩でも前進していきたい。宮古島市の期待に応えられるよう頑張りたい」と決意を話していた。